

「 土石流の前兆現象 」

今年には気象史に残る台風の上陸数と新潟県中越地震で、多くの農業被害が今も続いている。減災に役立つ数々の証言を参考にして欲しい。

昨年7月の水俣市の土石流災害では、19人の農家の方々が亡くなり、田畑が大打撃を蒙った。ボランティア消防士2名の殉職は、今も思い出すたび胸が熱くなる。彼らの尊い命を賭けた救助行動を忘れてはならない。

さて、土石流には確かな前兆現象がある。水俣市の場合も、事前に付近の住民が見たり聞いたりしていた事実が、NHKの現地の取材で明らかにされた。

主な前兆現象の前触れが3つある。

1) 音

グオーっという底知れない地響きや不気味な山音を、住民が聞いていた。石や岩がぶつかり合い、凄まじいエネルギーとなり、どよめきを放っている音。

2) におい

番組の中の証言、「何かガスのようなきな臭いにおい」を感じた。これは、毎秒10mほどの猛スピードで流れ落ちて来る土砂や石が、大きな岩にぶつかり合う時に発生する臭い(長崎大学教授の話)。

3) 水の流れ方

土砂混じりの濁水や川の流れが、一次的に少なくなるか、止まる。よって、大したことはないという、安易な判断や間違った行動に陥りやすい。

これは、明らかに上流で自然のダムができ、一次的に流れがストップしたため。ダムが切れ、流れ出す前の一瞬の静けさである。

平成9年7月10日に発生した、鹿児島県出水市の土石流災害の被災者へのインタビュー。その痛恨のメッセージは、土石流災害対策のヒントと根本的な問題を指摘した。

「土石流に前兆現象があるということは知らなかった」

(気象情報システム株式会社 高津 敏)